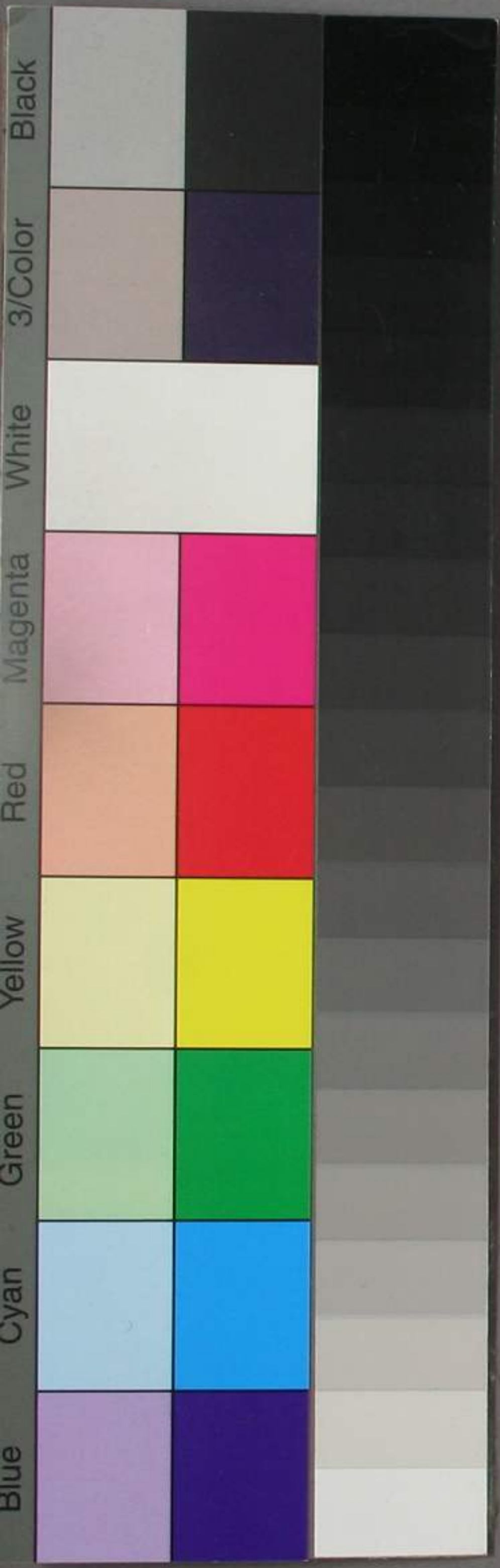




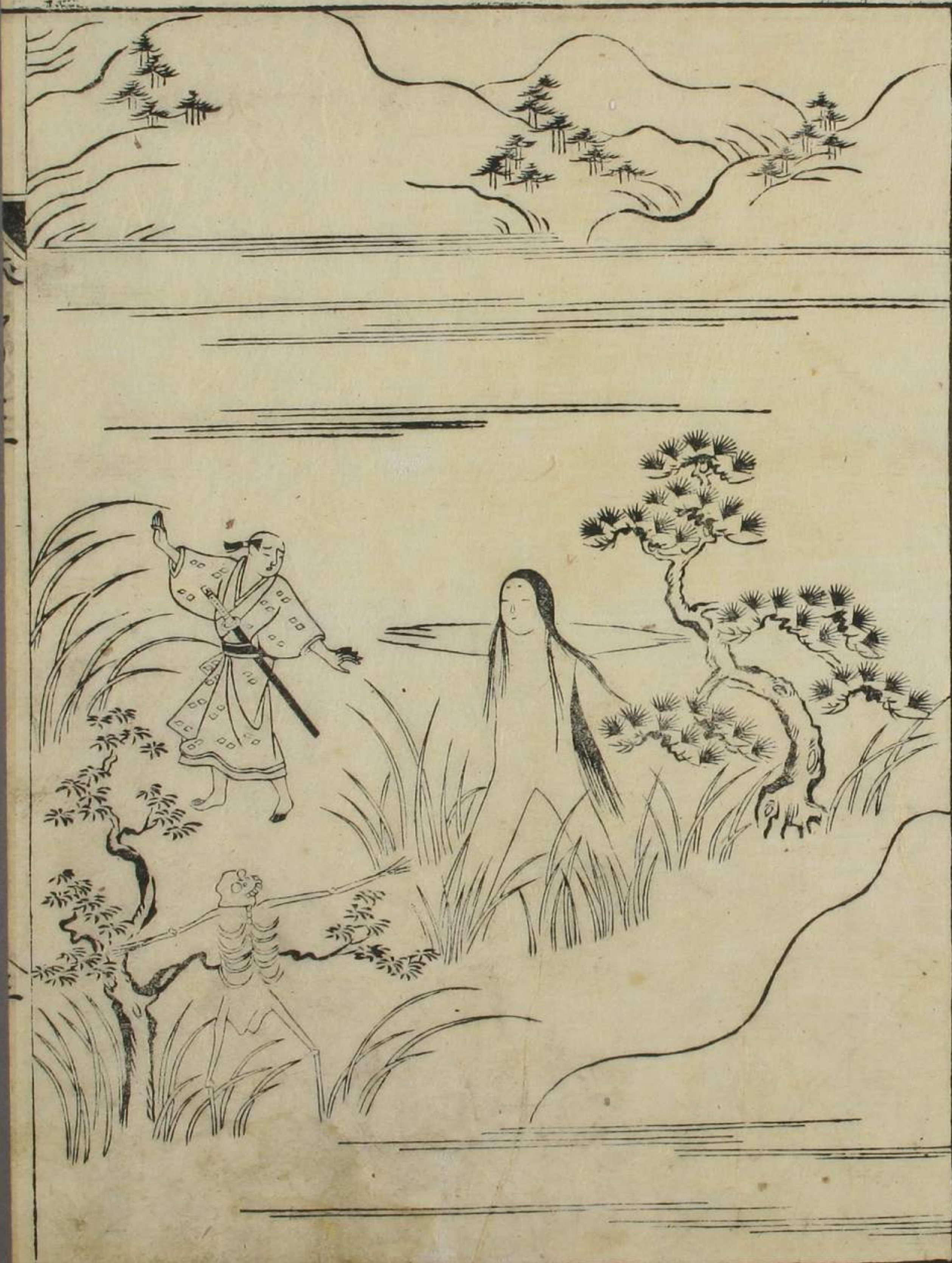
狗もいふと事之三

○ 倭京新^い三^に了^り地酒^{ぢしゆ}と飲^{のみ}

元和年中は伊予新三帝とふの久く軍浪し
 てわが日夜をわたりて冬に到みたり来りわたりて其の日
 の思ふ事ごとくふ植り冬に蟬なりを清く
 うきあそびたりわたりてふ日とてふあそびはあそ
 きて見たりわたりて吹雪ふなり。たはかりは梅なり
 あたりよりわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
 わたりてわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
 解酒とわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
 とうふ年なりわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
 ちかき。わたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
 ちかき。わたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
 ちかき。わたりてわたりてわたりてわたりてわたりて



[illegible][illegible]



卷之六

二

三



ともふてはめ人^じあれつらひ^みの^く頼^んまの^いあ
 ともあめ。あて^げ下^さ向^むの^じ地^ち事^じは^のゆきと^さい
 て^め母^{はは}つ^らあ^らと^いつ^りも^あら^はし^める^ま娘^{むすめ}も^いま^もい^まも^いま^も
 多^{おほ}く^くあ^あれ^れは^はう^う

くさ

うらな

ま

は

[illegible]

好むを地をもくもくはうへふ。女又さやうそふいあふ人
 の神が若き薦布とじやうくけえゆく月の新も惜ま
 う海ひの波く様のや成もきこまりやとその也
 も文にもの成もいとに女つ子屋うそのみよはく
 くらぬく文れきうて地をもくもく海もろくでうとて
 魚移る園う海ふく女まじり細うともあうも。
 一と葉さやありづううめさうくおしく毛羽て
 ゆうしん

炎帝と天付
 鼎湖元と法
 七子と玉璣

○大内義隆の秋

大内義隆は、前年（大正）の秋、中国の大都（北京）に赴き、
 明の皇帝（袁世凱）と謁見し、日本の地位を固め、
 支那の発展に協力する旨を述べた。この時、
 日本は、支那の領土を侵すことなく、
 支那の文化と産業を保護し、
 支那の人民の幸福を促進することを誓った。
 この大内義隆の秋は、日本の外交史上、
 重要な一頁を占める。

大内義隆は、前年（大正）の秋、
 中国の大都（北京）に赴き、
 明の皇帝（袁世凱）と謁見し、
 日本の地位を固め、
 支那の発展に協力する旨を述べた。
 この時、
 日本は、支那の領土を侵すことなく、
 支那の文化と産業を保護し、
 支那の人民の幸福を促進することを誓った。
 この大内義隆の秋は、日本の外交史上、
 重要な一頁を占める。

大内義隆は、前年（大正）の秋、
 中国の大都（北京）に赴き、
 明の皇帝（袁世凱）と謁見し、
 日本の地位を固め、
 支那の発展に協力する旨を述べた。
 この時、
 日本は、支那の領土を侵すことなく、
 支那の文化と産業を保護し、
 支那の人民の幸福を促進することを誓った。
 この大内義隆の秋は、日本の外交史上、
 重要な一頁を占める。



何うのうゝ湯をさうさうとさうさうと
 何うのうゝ湯をさうさうとさうさうと
 何うのうゝ湯をさうさうとさうさうと
 何うのうゝ湯をさうさうとさうさうと
 何うのうゝ湯をさうさうとさうさうと
 何うのうゝ湯をさうさうとさうさうと
 何うのうゝ湯をさうさうとさうさうと
 何うのうゝ湯をさうさうとさうさうと
 何うのうゝ湯をさうさうとさうさうと
 何うのうゝ湯をさうさうとさうさうと

何うのうゝ湯をさうさうとさうさうと

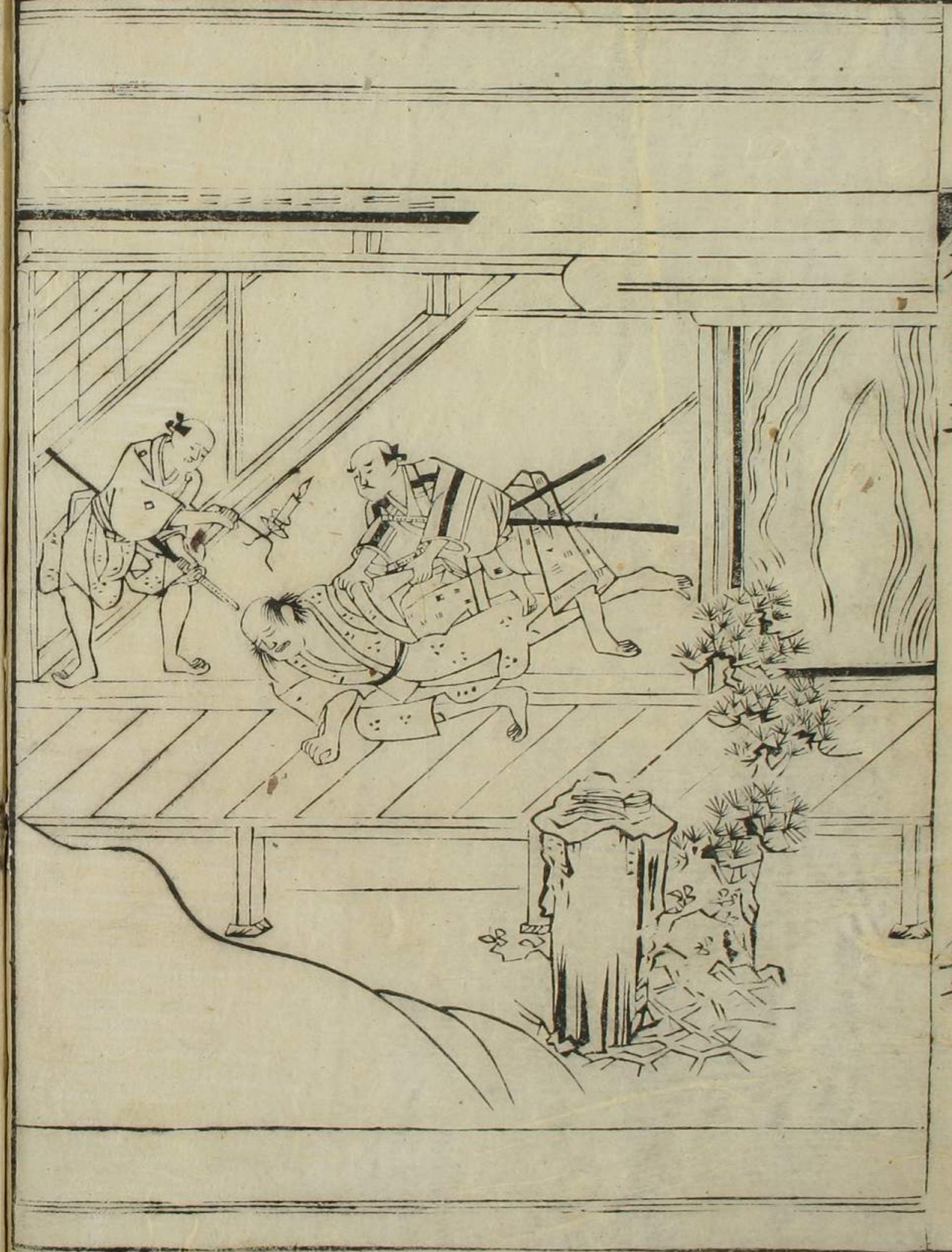
何うのうゝ湯をさうさうとさうさうと

何うのうゝ湯をさうさうとさうさうと

何うのうゝ湯をさうさうとさうさうと



大
三



大
三

八
七

○ 缺川 親當 延三 魂

[illegible]

けりてしるはあまふゆのあをれをけりてそ
 わき風をてしふあみてゆきまふゆけり
 きのきよともあゆけをうらうりきりまのきり
 久うきあきけりてきりてきりてきりて

[illegible]

三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

